

安全データシート

ナラシン

連絡先:

会社名 日本ニュートリション株式会社

住所 東京都港区南青山一丁目1番1号 新青山ビル西館22階

電話番号: 03-5771-7890

FAX番号: 03-5771-7894

緊急連絡先: 03-5771-7890

作成年月日: 2025年10月30日

1. 化学品名及び会社情報


化学品の名称	ナラシン
供給者の会社名称	日本ニュートリション株式会社
住所及び電話番号	東京都港区南青山一丁目1番1号 TEL:03-5771-7890
用途	飼料または飼料添加物
使用上の注意	なし

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性ガス	分類対象外
	エアゾール	分類対象外
	酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分に該当しない
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外

ナラシン（初版）

	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性化学品	分類できない
	鈍性化爆発物	分類できない
健康有害性	急性毒性（経口）	区分 4
	急性毒性（経皮）	分類できない
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	区分 1
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	分類できない
	生殖毒性・授乳に対する又は授乳を介した影響	分類できない
	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	分類できない
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1
	誤えん有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期（急性）	分類できない
	水生環境有害性 長期（慢性）	区分 3
	オゾン層への有害性	分類できない
GHS ラベル要素		
絵表示またはシンボル		
注意喚起語	危険	
危険有害性情報	飲み込むと有害 皮膚刺激 重篤な眼の損傷 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起こすおそれ 長期にわたる、または反復ばく露による臓器（心臓、神経系、筋肉）の障害 長期継続的影響により水生生物に有害	

ナラシン（初版）

注意書き

【安全対策】

粉じんの吸入を避けること。

保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

吸入した場合：呼吸が困難な場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

直ちに医師に連絡すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名

ナラシンを含む混合物

成分及び含有量

ナラシン：100 g（力価）/kg（CAS No. 55134-13-9）

賦形物質等としてもみがら粉末、流動パラフィン（1~3%）（CAS No.8012-95-1）を含む。

4. 応急措置

吸入した場合

本製品の剤型は粗い顆粒状であり、エアロゾル化しにくいいため、吸入により有毒ではないと考えられる。吸入した場合、直ちに新鮮な空気のある場所へ移動する。必要に応じて酸素マスクや人工呼吸器を使用する。直ちに医師の手当てを受ける。

皮膚に付着した場合

接触した部分の皮膚を直ちに多量の水と石鹼で洗浄する。汚染された衣服や靴は替え、再使用前によく洗浄する。刺激性が認められた場合、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合

直ちに水で15分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。直ちに洗うことにより、持続性の傷害を避けられる可能性。医師の手当てを受ける。

飲み込んだ場合

コップ数杯の水を飲ませること。意識のない場合や痙攣を起こしている場合には、何も飲ませないこと。直ちに医師の手当てを受ける。

ナラシン（初版）

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	飲み込むと危険。重篤な眼の刺激性。持続的又は反復ばく露により心臓、神経系、筋肉への影響の可能性。皮膚刺激。吸入によりアレルギー反応、喘息様症状もしくは呼吸困難を起こす可能性。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	眼：直ちに洗うことにより、持続性の傷害を避けられる可能性。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	水、二酸化炭素、粉末消火剤
使ってはならない消火剤	知られていない。
特有の危険有害性	過剰な熱または火災により有害な分解物を発生する可能性がある。粉じんにより爆発性混合物を生じる可能性に注意する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火作業の際は、適切な自給式呼吸器及び保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	非緊急事対応要員に対する注意事項：皮膚、眼、衣服への接触を避ける。適切な保護衣、保護手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を参照のこと。 緊急事対応要員に対する注意：知見なし。
環境に対する注意事項	水生環境への流入を避ける。漏出物が付近の地面、河川、湖水や池などに流出しないよう注意すること。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	少量の漏出：ほうき等で掃かないこと。漏出物は可能な限り集塵フィルター付きの掃除機で吸い取る。電気機器を使用する場合は、粉じん爆発の可能性には十分に注意すること。掃除機がない場合、漏出物を湿らせた後、モップ等で拭き取ること。 多量の漏出：漏出物が排水溝、下水、河川等に流入しないよう注意する。火の元となるものを遠ざける。迅速な廃棄のために適切な容器に回収する。交通事故等による多量漏出の際は警察への通報並びに、「1. 製品及び会社情報に記載の販売業者」への通報を行うこと。

7. 取扱い及び保管上の注意

ナラシン（初版）

毒物劇物取締法の定めるところに従う。

取扱い

技術的対策 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項 説明書等を必ず読み、記載事項を守ること。
馬や七面鳥の成鳥には致死的となり得るのでこれらの動物が間違って摂取しないように注意する。産卵鶏にも給与しないこと。

眼に入らないように注意し、皮膚や衣服への付着を避けること。作業後は手をよく洗うこと。粉じんの発生と蓄積を最小限とする。熱や火の元を避けること。環境への漏出を避ける。

接触回避 データなし

衛生対策 本品を取り扱う際には適切な職業衛生基準に従って行う。
製造所においては、皮膚との接触を避けるため耐薬性手袋及び保護衣を着用すること。実験室内のような適切な換気のある閉鎖されている空間での取り扱いにおいては呼吸マスクやゴーグル／保護面の着用は必須ではない。安全メガネは着用すること。

通常の使用状況においては皮膚への接触を避ける保護衣や不浸透性手袋、防じんマスクを着用すること（推奨）。取扱い後は手を水と石鹼でよく洗うこと。万が一眼に入った場合、直ちに大量の水で洗うこと。

保管

安全な保管条件 容器は密封し、適切な換気のある乾燥した涼しい場所に保管する。混触危険物や高温、直火から離す。酸化性物質との接触を避ける。表示のない、あるいは開封された容器で保管しないこと。

安全な容器包装材料 データなし

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度 設定されていない。

許容濃度（ばく露限界値、生物学的指標） 日本産業衛生学会（2018年度版）：
第2種粉じん（粉じんの種類：穀粉、吸入性粉じん：1 mg/m³、総粉じん：4 mg/m³）

ACGIH：賦形物質による穀物粉じん 4 mg/m³ TWA、流動パラフィン（CAS 8012-95-1） 5 mg/m³ TWA

ナラシン（初版）

	ばく露限界値： ナラシン（CAS 55134-13-9）11 µg/m ³ TWA 12 時間 （TWA：時間加重平均）（製造業者ばく露ガイドライン） 生物学的限度指標は設定されていない。
設備対策	毒物及び劇物取締法に基づいて適切な設備対策を行う。 ドラフト、換気付き囲い、局所排気装置もしくは下降気流の 区画などの適切な対策を行う。
保護具	
呼吸用保護具	対応する適切な呼吸器保護具を選択すること。
手の保護具	皮膚との接触を避ける不浸透性手袋、化学薬品耐性手袋 （EN374 に適合する）
眼、顔面の保護具	側面遮蔽型の保護眼鏡（EN166 に適合する）、ゴーグル型保 護眼鏡、保護面。
皮膚及び身体の 保護具	皮膚との接触を避ける耐薬性手袋及び不浸透性の作業衣 （上・下）、保護帽子、安全靴等。
特別な注意事項	環境ばく露対策：漏れや流出を避け、排出物については地方 公共団体条例等を遵守すること。環境中に流出した場合は責 任者に報告すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	粒子
色	灰褐色～褐色又は黄白色～黄色
臭い	知見なし。
臭いの閾値	知見なし。
融点／凝固点	知見なし。
沸点又は初留点及び沸点 範囲	知見なし。
可燃性	知見なし。
爆発下限界及び爆発上限 界／可燃限界	知見なし。
引火点	知見なし。
蒸発速度	知見なし。
火炎燃焼性	試験データなし。
自然発火点	知見なし。
分解温度	知見なし。
pH	知見なし。

ナラシン（初版）

動粘性率	知見なし。
溶解度	知見なし。
n-オクタノール／水分配 係数（log 値）	知見なし。
蒸気圧	知見なし。
密度及び／又は相対密度	知見なし。
相対ガス密度	知見なし。
粒子特性	知見なし。
爆発性	爆発性はない。
酸化性	酸化性はない。
最低着火温度	知見なし。
揮発性	知見なし。
揮発性有機化合物（VOC）	知見なし。

10. 安定性及び反応性

反応性	水に反応性ではない。
化学的安定性	通常の保管条件下で安定。
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない。
避けるべき条件	知られていない。
混触危険物質	強酸化性物質。
危険有害な分解生成物	火災により、有害な分解生成物の発生が想定される。

11. 有害性情報

急性毒性	飲み込むと有害。 本製品の剤型は粗い顆粒状であり、エアロゾル化しにくい ため、吸入により有毒ではないと考えられる。
------	---

ナラシンを含む混合物

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ 331 mg/kg
急性毒性（経皮）	ラット LD ₅₀ 5000 mg/kg 死亡なし、毒性なし。

ナラシン

急性毒性（経口）	ラット LD ₅₀ 26.9 mg/kg
急性毒性（経皮）	ウサギ LD >500 mg/kg 死亡なし、毒性なし。
急性毒性（吸入）	ラット LC ₅₀ 87 mg/m ³ 、4 時間
皮膚腐食性／刺激性	ウサギ...重度の皮膚刺激性

ナラシン（初版）

眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	ウサギ...重度の眼刺激性。ばく露直後の洗浄により持続性の傷害を避けられる可能性がある。
呼吸器感作性又は皮膚感 作性	呼吸器感作性：吸入による感作性の可能性（穀物粉じん）。 皮膚感作性：実験動物での試験において感作性なし。既存のデータでは区分には該当しない。
生殖細胞変異原性	陰性。既存のデータでは区分には該当しない。
発がん性	発癌性無しと判断されている。既存のデータでは区分には該当しない。
生殖毒性	動物試験において影響なし。既存のデータでは区分には該当しない。
特定標的臓器毒性(単回ば く露)	動物試験において影響なし。既存のデータでは区分には該当しない。
特定標的臓器毒性(反復ば く露)	動物試験において次のような影響が報告されている：中枢神経系。痙攣、振戦。心臓への影響。心拍数や鼓動の変化。骨格筋への影響。
誤えん有害性	吸引毒性区分ではない。

12. 環境影響情報

水生生物に毒性が高く、影響が長時間続く。

生態毒性

土壌生物毒性	ミミズ LC50 >100 ppm、14 日間（ <i>Eisenia fetida</i> ）
藻類毒性	緑藻 EC50 2.92 mg/L、72 時間（ <i>Pseudokirchnerella subcapitata</i> ） 緑藻 EC50 0.77 mg/L、72 時間（バイオマス）
鳥類毒性	カモ LC50 3800 mg/L、5 日間（混餌） ウズラ LC50 630 mg/L、5 日間（混餌）、73.96 mg/kg、14 日間（雄）、70～100 mg/kg、14 日間（雌）
魚毒性	ブルーギル LC50 3.27 mg/L、96 時間 ニジマス LC50 1.4～2 mg/L、96 時間
ミジンコ毒性	ミジンコ EC50 7.72 mg/L、48 時間
製造業者水生ばく露ガイドライン	
飲水ばく露	30 µg/L
水生環境有害性 長期 （慢性）	15.5 µg/L
水生環境有害性 短期 （急性）	139 µg/L

ナラシン（初版）

残留性・分解性	土壌での半減期は砂質、沈泥、埴壤土においてそれぞれ 21、49、29 日。
光分解性	土壌微生物：炭素変換：17.43 mg/kg で有意な影響なし。
加水分解	半減期は水系環境で 1.5 日（pH 7）、土壌で 8.8 日
生態蓄積性	半減期は 3.5 日（pH 5） log Kow \geq 4 n-オクタノール／水分配係数（log Kow）： >6.2（HPLC）、4.85（pH 8）
土壌中の移動性	吸着性 log Koc >5.63（pH 4.5 及び 6）
PBT 及び vPvB 評価	PBT 並びに vPvB の成分もしくは混合物ではない。
オゾン層への有害性	知見なし。

13. 廃棄上の注意

化学品（残余廃棄物），当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で，かつ，環境上望ましい廃棄，又はリサイクルに関する情報	漏出物・残留物・空容器などはすべて関連法規に基づき、都道府県知事等の許可を受けた産廃業者に処分を依頼する。環境や水系を汚染しないように注意すること。
--	--

14. 輸送上の注意

国連番号	UN2811
品名（国連輸送名）	毒性のある固体、有機物（ナラシン）
国連分類(輸送における危険有害性クラス)	分類：6.1 副次的リスク：-
容器等級	II
環境有害性	あり。
海洋汚染物質	知見なし。
国内規制がある場合の規制情報	陸上規制情報：毒劇法の規制に従う。
特別安全対策	知見なし。

15. 適用法令

該当法令の名称及びその法令に基づく規制に関する情報	
毒物及び劇物取締法	劇物 政令第 2 条第 1 項第 77 号の 2（ナラシン又はその塩類のいずれかを含む製剤であって、ナラシンとして 10%以

ナラシン（初版）

労働安全衛生法	下を含有するもの。ただし、ナラシンとして 1%以下を含有し、かつ、飛散を防止するための加工をしたものを除く。） 令和 8 年 4 月 1 日からの施行(義務適用) 名称等を表示すべき危険有害物 名称等を通知すべき危険有害物
その他	毒物及び劇物取締法、飼料の安全性の確保及び品質の改善に関する法律（飼料安全法）、廃物処理法、地方公共団体条例等

16. その他の情報

この安全データシートは、いくつかの安全データシートの情報を参考にして、日本ニュートリションが作成したものです。全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報に漏れがあるかもしれません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、別途、資料や文献を調査し検討されるか、試験によって確かめることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常取り扱いを想定しており、特殊な取り扱いの場合には、別途注意が必要になることをご配慮ください。

<引用文献>

- 厚生労働省 職場のあんぜんサイト：モデル SDS「ナラシン」2008 年 11 月 19 日改訂版
 - 原料メーカー提供の安全データシート(SDS)
 - 許容濃度等の勧告（2018 年度）、日本産業衛生学会、産業衛生学雑誌 60 巻、2018 年
 - 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂 6 版、国際連合、2015 年
- その他各データごとに記載

<改訂履歴>

版	日付	内容
初版	2025 年 10 月 30 日	—